

ひと花笑劇団・ひと花センター・釜ヶ崎芸術大学のおじさんたち・上田假奈代【大阪】

風にはこぼれて、釜ヶ崎。土の声、土のことば

かどてま
『風車』作・演出：浅田稔 出演：ひと花笑劇団
詩の朗読：ひと花センター 釜ヶ崎芸術大学のおじさんたち 上田假奈代

11月26日(土)15:00・27日(日)14:00

→ 議場劇場

料金：大人1,000円 中学生500円 小学生以下無料

詩人の上田假奈代さんは、大阪、釜ヶ崎の高齢のおじさんたちと、詩を通じて心を交わし、人生のおもしろさとかせつなさを分かち合う活動をしています。この上演では、その活動の中で生まれた詩を紹介したり、おじさんたち自作自演の人情悲劇(喜劇?)を披露します。おじさんたちと上田さんのダイナミックでズックな交流の中で生まれた言葉の営みをお楽しみください。

上田假奈代

詩人。3歳より詩作、17歳から朗読をはじめる。92年から詩のワークショップを手がける。2001年「詩業家宣言」を行い、さまざまなワークショップメソッドを開発し、全国で活動。03年新世界フェスティバルゲートで、コルムをたちあげ「表現と自律と仕事と社会」をテーマに社会と表現の関わりをさぐる。08年から西成区通称・釜ヶ崎で「インフォショップ・カフェ コルム」を開き、喫茶店のふりをし、2016年春「ゲストハウスとカフェと庭 コルム」を開く。NPO法人こえとことばとこころの部屋(コルム)代表。

助成：福武財団



劇団おとな団【沖縄】

ウチナンチュ

『九人の迷える沖縄人』

手元字幕あり

作：安和学治 国吉誠一郎 演出：当山彰一

11月19日(土)17:00

→ 鹿野往来交流館「童里夢」

料金：大人1,000円 中学生500円 小学生以下無料

島の劇場は、昨年来、沖縄で現代劇に関わる演劇人と交流を持ってきました。明治以降の日本社会の問題が凝縮した形で存在する沖縄にあって、彼らは現代劇を通じて社会に対し何ができるかの模索を試みています。ご覧いただく作品は、米軍基地を巡るさまざまな意見の錯綜、解決策の見つからない現状での沖縄県民の混乱や苦悩を、沖縄の生活者の視点で描いています。

劇艶おとな団

2011年安和朝彦・学治兄弟と当山彰一が中心となり結成。旗揚げ公演『ウチカビ(作：安和学治)』以来、沖縄の文化や慣習にこだわった作品を年2回の定期公演で発表し続けている。地域やおとな向けの演劇ワークショップ、県立博物館美術館と共催した地域連携劇「ニムイ〜太陽のキャンパス〜」など地元にごだわり活動の場を広げている。

これまでの主な作品：『ウチカビ』・『ユンジチ』・『泡盛ティードあります』・『御前風』・『ゴーストライター』・『ウチカビ年金』

支援：公益財団法人沖縄県文化振興会<平成28年度沖縄県文化活性化・創造発信支援事業>



島の演劇祭も今回で9回目です。最近とても盛んな地域での「芸術祭」の一つです。全体状況として、地域＝地方でアートに関する語々が盛んになるのはいいことだと思います。東京にしか「芸術」がなかった状況を変えようとするのは、大きな意味があります(本当に地方に芸術がなかったか、本当に東京に芸術があったか、それはいったん置きましょう)。

けれど、その芸術祭が、東京のミニ版あるいは劣化版になっていないか、あるいは地方の芸術祭という型にはまっていないか。自戒を込めて考えます。今年の島の演劇祭は、9月にBeSeTo演劇祭を開催した関係で、例年より遅い11月になり、開催規模も小さくなっています。参加作品も「地域」のものばかりです。が、思いとエネルギーがあるものばかりです。他では観られないようなものばかりだと自負しています。2008年からの島の演劇祭の継続開催の成果として、是非是非「9」にご期待ください。

(島の演劇祭プログラム・ディレクター 中島諒人)

じゅう劇場

じゅう劇場版「銀河鉄道の夜」

構成・演出：中島諒人 齊藤頼陽

手元字幕あり

手話通訳あり

11月26日(土)12:00

→ 鹿野往来交流館「童里夢」

料金：無料

障がいのある人、ない人がともに舞台を作る「じゅう劇場」。障がいのある人が演劇を作る試みは、世界的に見ても先進的な挑戦です。今年は大阪からの出演者も迎え、さらに多彩な顔ぶれになりました。三作目の今回は、宮澤賢治の名作「銀河鉄道の夜」を取ります。宇宙、星、闇、学校、祈り、祝祭、孤独、いじめ、旅、生と死。原作のイメージをコラージュし、出演者の体験、想像や願望も混ぜ込んで、生きる不思議、喜びや切なさを描きます。



昨年の上演「ロミオとジュリエット」からうまれたもの」

島の劇場

ガマ

『洞窟』リーディング上演

手元字幕あり

作：嶋津与志 演出：中島諒人

11月19日(土)19:00・

23日(水・祝)15:00・

26日(土)17:00

→ 島の劇場【劇場】

料金：無料

島の劇場では、敗戦70年の昨年、戦争について考える様々な企画を行いました。国際環境の変化の中で、安全保障に関する議論が盛んになっています。本作は、悲惨を極めた沖縄での地上戦の実相を伝えるものとして、たいへん貴重なテキストです。沖縄の劇艶おとな団の作品を取り上げるのと合わせて、島の劇場がこの作品をリーディングの形でお届けします。



昨年のリーディング上演「その人を知らず」

島の劇場

野外上演『どろぼうがっこう』

手元字幕あり

原作：かこさとし 構成・演出：中島諒人

11月19日(土)15:00・

23日(水・祝)13:00・

27日(日)11:00

→ 島の劇場【校庭】

料金：無料

かこさとしさんの名作絵本を下敷きにした豪快痛快でとぼけたお芝居。学校などで頻繁に上演する島の劇場の超人気演目です。どろぼうになってお金持ちになることを夢見て、「どろぼうがっこう」に奇妙な人々が集まります。実技の授業ということで、遠足ついでに大きな建物に侵入を試みますが…。野外上演版として、破天荒な演出でお送りします。(雨天の場合は、屋内で上演します。)



江原道華川郡の学生による演劇グループ“Tuimtuigi(ティムティギ)”【韓国】/ 鳥取敬愛高等学校演劇部

日韓中高生 輝け青春 二本立て上演

手元字幕あり

【韓国】作：キム・ミンジ 演出：チェ・ジェヨン 出演：ティムティギ

【日本】構成・演出：中垣直久 Mitchell Conway 出演：鳥取敬愛高等学校演劇部

11月19日(土)・

20日(日)12:00

→ 議場劇場

料金：大人1,000円 中学生500円 小学生以下無料

11月20日(日)15:00～16:30で日韓中高生による演劇ワークショップを行います。会場は島の劇場【劇場】。16:00頃から発表を予定しています。観劇は無料です。

日韓の十代の子どもたちの二つのグループが、それぞれの作品を披露する二本立て上演。韓国のティムティギは、島の劇場と交流の深い劇団ティダが定期的に指導しているグループ。オリジナル作品「双子」を上演します。鳥取敬愛高校演劇部は、9月から島の劇場の俳優が指導を行いました。こちらは古典「ロミオとジュリエット」に挑戦です。日韓のキラキラした“青春の輝き”をお楽しみください。



助成【韓国】：곰다락
고려문화학교

GANGWON
PROVINCE

강원문화재단
Gangwon Arts & Culture Foundation

강원문화예술교육지원센터
Gangwon Culture & Arts Education Support Center

한국문화예술교육진흥원
Korea Arts & Culture Education Service

문화공간
예술터

Julian Park
Park Farm

鳥取市立鹿野小学校6年生

鹿野小学校6年生がプレゼンテーションに挑戦！

11月23日(水・祝)14:00・26日(土)11:00

→ 島の劇場【ホワイエ】

料金：無料

島の劇場の近くの鳥取市立鹿野小学校の子どもたちとは、いつもさまざまな交流をもっています。俳優が学習発表会のお芝居の指導や絵本の読み聞かせに行ったり、公演に児童のみなさんをご招待したりなど。今回は、6年生の子どもたちが、国語の学びの一環として立案した「鹿野ジオパーク学習館」のアイデアを、いくつかプレゼンテーションしてくれます。どんなユニークなプレゼンが飛び出すか期待を高め、子どもたちにちょっとプレッシャーをかけたいと思います。



鳥取県立鳥取盲学校児童生徒＋上田假奈代【大阪】

鳥取盲学校の子どもたちと 詩人の上田假奈代が出会って生まれた言葉

11月27日(日)12:30

→ 島の劇場【ホワイエ】

料金：無料

鳥取盲学校の小中高生を詩人の上田假奈代さんが訪ねます。その出会いを通じて生まれた言葉をみなさんにご披露します。詩という、児童生徒さんとはみんなちょっとかしてまってしまうと思うのですが、上田さんの朗らかな声と自由さに励まされ、彼らの中から自分の言葉が生まれてくると思います。その果実を観客のみなさんで分かち合ひましょう。



公募企画

劇作家松井周と台本を3日で書いて、ちょっと演じてみよう

■ 創作WS

→ 鹿野町内

11月25日(金)19:00～21:00・26日(土)11:00～17:00・27日(日)13:00～17:00

参加資格：中学生以上

参加料金：一般3,000円 学生1,000円

※創作WSへの参加を希望される方は、(0857)84-3268(島の劇場)までご連絡ください。

■ 発表上演

→ 島の劇場【劇場】

11月27日(日)16:00

料金：無料

松井周さんは、日本の現代演劇の世界で非常に質の高い作品を発表している劇作家です。何気ない日常の中に潜む衝動やユーモアに目を向けて、狂気と笑いにあふれた演劇世界を作っています。今回は、その松井さんに講師としてお越しいただき、一般市民の方を対象に、台本を書くワークショップを実施してもらいます。さらにできた台本を島の劇場の俳優とともに演じて、一般の観客に披露するということも行います。

小鳥の家族

11月26日(土)・27日(日)

各日10:00・11:00・13:00・14:00・15:00

→ 鹿野町内

定員：各回1組の計10組

撮影料：1,000円/1家族

※プリント料、郵送料を含みます。※A4写真、和紙・紙べんなど制作は別途相談に応じます。

※2016年12月～2017年2月に展示会を予定しています。撮影写真の作品発表にご同意いただけるご家族のみお申込みください。

鳥取県出身の写真家、水本俊也さんが劇場周辺の風景を舞台に、家族写真を撮影するという企画です。一昨年、昨年も実施して大好評の企画でした。柔らかに優しい水本さんの写真世界が、家族の大切な一瞬を記録してくれます。

